

一般社団法人 アクト・ビヨンド・トラスト 2023 年度助成企画募集のご案内

「ネオニコチノイド系農薬に関する企画」

お米から果物など幅広い農産物に用いられ、シロアリ駆除剤や家庭用殺虫剤として身近な暮らしにも入り込んでいる浸透性殺虫剤（ネオニコチノイドおよびフィプロニル）——。近年の急速な研究の進展により、環境中での持続的な慢性曝露による無脊椎動物への時間累積的毒性や、食物連鎖を通じた漁業への脅威などが明らかになりつつあります。世界の科学者コミュニティからは、生態系と生物多様性全体を脅かすことへの警鐘が鳴らされるだけでなく、ヒトの母体から胎児への移行や発達神経毒性を示す研究成果も蓄積されつつあります。

本助成は、予防原則を踏まえて、製薬メーカーの意向や現行の行政判断に左右されない独立の立場からネオニコチノイド系化合物の影響を検証する「調査・研究」活動、浸透性殺虫剤の問題点や最新の研究成果を広く共有する「広報・社会訴求」活動、浸透性殺虫剤を使わないサプライチェーンの確立をめざす「市場“緑化”」活動、国や地方の立法・行政機関に規制強化を働きかける「政策提言」活動を支援します。国の農薬再評価とオーガニック推進が進むいま、規制強化へ日本が踏み出すことを後押しできるような成果を期待しています。ふるってご応募ください！（応募要項など申請書類一式は下記リンクよりどうぞ）

<https://www.actbeyondtrust.org/program/kobo2023/>

1. 応募資格：ネオニコチノイド系農薬（およびフィプロニル）に関する問題提起や、使用の削減ないし中止に取り組む個人および団体（ボランティアグループ、NPO/NGO、公益法人、研究機関、生産者など。地域、法人格、活動実績は不問）
2. 助成分野と金額：「調査・研究」「広報・社会訴求」「市場“緑化”」「政策提言」分野（いずれかを選択）
1 企画あたりの助成額：上限 100 万円
※2 部門以上にまたがる案件は、1 部門を超えるごとに 1 部門あたり 50 万円を加算
3. 助成対象期間：2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日の間に実施される活動
4. 応募受付期間：2022 年 12 月 7 日～2023 年 1 月 31 日
5. 問い合わせ先：一般社団法人アクト・ビヨンド・トラスト 助成係
電話：070-6551-9266（10：00～19：00）
Email：grant@actbeyondtrust.org
<http://www.actbeyondtrust.org>
<https://www.facebook.com/actbeyondtrust>
【12/28～1/4 は年末年始休業】

一般社団法人アクト・ビヨンド・トラストは、自然環境と人間生活の調和を目的とした市民や NPO・NGO の活動を支援する、独立した民間基金です。問題解決のための具体的・効果的・創造的なアクションを重視し、資金援助、コンサルティング、技術および人材提供、トレーニングなどを行なっています。詳しくは上記 web サイトや Facebook ページをご覧ください。

これまでの企画から

2022 年度に採択された企画例をご紹介します。

これまでに実施された企画は、アクト・ビヨンド・トラスト web サイトの「助成プログラム」(公募助成)をご参照ください。2021 年度までの各助成対象企画について報告書をご覧いただけるほか、同サイトの「助成先活動情報」では、2022 年度助成対象企画の活動状況をリアルタイムで取り上げています。 <http://www.actbeyondtrust.org>



■ Sanda Organic Action!(広報・社会訴求／政策提言)

未来を担う子どもたちの食事の約3分の1を占める給食が、ネオニコチノイド系の食材で提供されること、また、それを起点として三田市が市政全般において、持続可能でオーガニックな街づくりを推進するきっかけとなることを目的として、三田市内の学校給食への有機食材導入を目指す。同時に、無農薬での米・野菜づくりを体験する機会の提供や、農薬の危険性等について学ぶ学習会を開催し、街全体でオーガニックの気運を高めていくことを目的として、「さんだオーガニックアクション」の活動を展開する。

■ 農家と消費者の参加型調査による農薬の圃場生態系への影響比較(調査・研究／広報・社会訴求)

兵庫県丹波市と滋賀県高島市において、田植及び出穂期の前後4回の生き物調査及び農薬の残留濃度分析を行い、浸透性農薬を中心に農薬による圃場生態系への影響を検証する。有機農業と慣行農業の水田及び転作田からサンプルを採取し、ポストネオニコチノイド系農薬を含めて残留濃度を解析する。その結果を、農家及び消費者家族の意識向上のために実施する参加型の生き物調査と対照する。成果は報告会、小冊子により情報発信する。

■ 浜名湖流域のネオニコチノイド系農薬の流出源の特定と地下水への影響、水生昆虫とアサリのネオニコチノイド残留濃度と分解産生物質の測定、及び浜名湖の動物プランクトン(カイアシ類)調査(調査・研究)

浜名湖流域の水田地とミカン栽培地のどちらがネオニコチノイドの流出が大きいのか調査する。同時に調査河川の水生昆虫の生息状況と体内のネオニコチノイドの残留と分解産生物質を調査する。浜名湖の生態系への影響評価のために動物プランクトン(カイアシ類)の調査と体内のネオニコチノイドの残留と分解産生物質を調査する。地下水へのネオニコチノイド浸透の影響を調べるために、ミカン栽培地集水域と対照として田畑の少ない住宅地、商業地の地下水の調査を実施する。調査結果を公開し市民への啓発活動を行う。また、市民と農家にネオニコチノイドへの意識調査を行い啓発活動に利用する。

■ 岐阜県の給食をオーガニックにするための上映ツアー(広報・社会訴求)

「食の安全を守る人々」と「子どもをネオニコチノイドから守ろう」の上映会。「食の安全を守る人々」はネオニコチノイドとラウンドアップ、ゲノム編集の問題に取り組み、学校給食のオーガニック化に希望をみいだすもの。「子どもをネオニコチノイドから守ろう」はネオニコチノイドの人、特に子どもへの影響を取り上げた新しい映画。県内9都市で開催予定。

■ 女性農業従事者の尿中ネオニコチノイド系農薬検出実態調査(調査・研究)

ネオニコチノイド系農薬について、散布作業に従事する農業従事者を中心対象として暴露状況を調査した報告は少ない。女性の農業従事者を中心に、尿からの検出調査をおこない、実態をとりまとめ、Web や新聞記事として公表、ネオニコチノイド系農薬を取り巻く議論を深めるための材料としたい。

■ #デトックスやろう #カエルもわかる農薬の話(広報・社会訴求)

昨年は特別栽培で多用されているネオニコチノイドの問題などを、若者に届くようにと、講座とワークショップを開催し、Instagram や YouTube による配信を行なった。その結果、講座参加者(店舗)が尿検査を使ったデトックスプロジェクトを実施する企画を立ちあげ、現在実施中である。その広がりを一過性のものとせず、私達も継続企画として連携し、広げながら、次世代を担う世代に伝わるように内容を深めていく。また、ネオニコチノイド0を国が言い始めたが、その代替農薬といわれる RNA 農薬についても学ぶ。

■ 神経回路形成期の時期特異的ネオニコチノイド曝露影響と発達神経毒性の継世代評価(調査・研究)

胎子・授乳期などの発生・発達期は、脳機能形成において最も重要な時期に相当し、この時期にネオニコチノイド系農薬(ネオニコチノイド)に曝露すると生後の情動を司る脳神経系および行動に悪影響を及ぼすことが先行研究から示されている。本研究では、神経回路形成期を①「神経細胞増殖・分化期」、②「神経突起伸長期」、③「シナプス形成・アストロサイト分化期」および④「シナプスリモデリング期」の4ステージに分け、ステージ別に無毒性量のネオニコチノイドを曝露し、どのステージにおける影響が発達神経毒性の要因となるのか検証する。また、胎子・授乳期におけるネオニコチノイド曝露が及ぼす神経行動学的な継世代影響を検証する。

■ ため池や自然止水域におけるネオニコチノイド系農薬汚染と絶滅危惧水生昆虫の生息状況Ⅳ 新たに暴露試験と虫体からの農薬検出の試行(調査・研究)

3年間の助成により止水域でのネオニコチノイド系農薬の汚染実態と昆虫相比較から、1)国内広域で検出、2)絶滅産地で高濃度の検出、現存産地でも検出、3)汚染は地下水系に及ぶ、など深刻な実態を明らかにしてきた。しかし、この間新型コロナウイルス緊急事態の影響で、多くの期間で調査が実施できなかった。本研究では、農薬濃度が高い初夏や未調査地域の調査、高濃度汚染地と隣接地の比較、虫体の汚染実態試験、未着手だった農薬の暴露試験研究などによりさらに研究を深化させる。